

第1回

長野市災害復興計画検討委員会



令和2年1月14日

長野市

- ✓10月6日に南鳥島近海で発生した台風第19号は、一時大型で猛烈な台風に発達した後、12日19時前に大型で強い勢力のまま関東地方に上陸
- ✓関東甲信地方を中心に記録的な大雨となり、12日15時30分に大雨特別警報が、長野県を含む7都県に発表。13日0時40分までの半日で13都県での発表となり、特別警報の運用開始以来、最多の発表数
- ✓台風第19号本体が上陸する前から活発に雨雲が断続的に生じ、広範囲で強い雨が降り続けた結果、各地で観測記録を塗り替える大雨（特に千曲川流域の東域に300mm超）となり、千曲川本川で大出水

図1 台風第19号経路図<出典:気象庁報道発表>

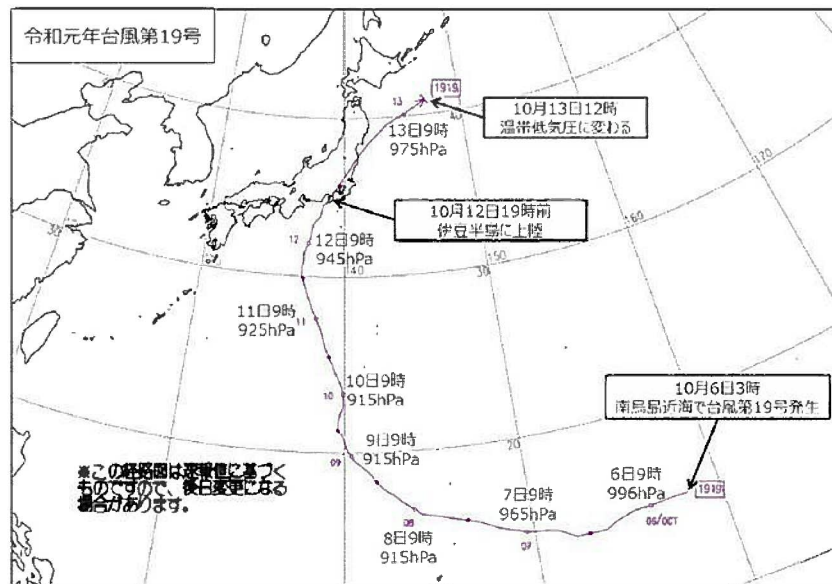
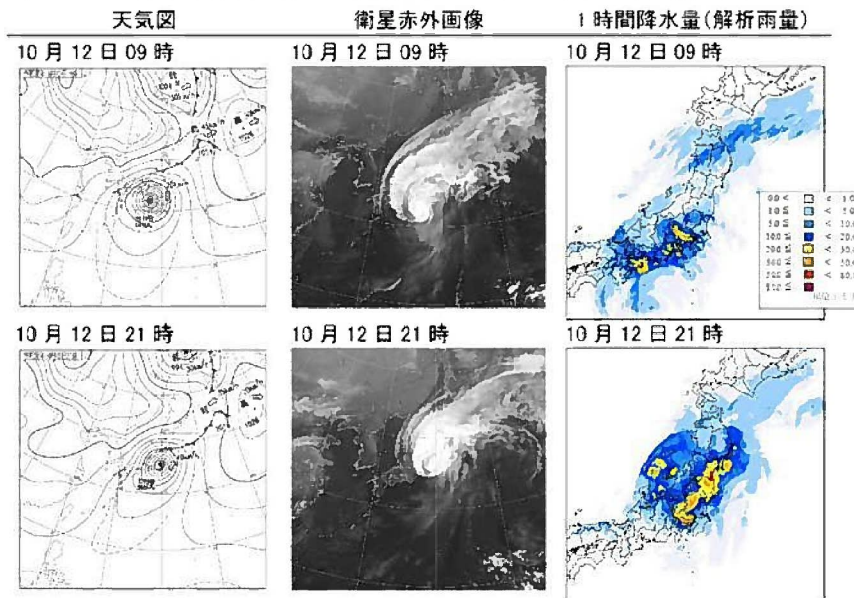


図2 天気図・衛星画像・雨量分布<出典:気象庁報道発表>



✓ 台風経路の左側にあたる東日本から東北地方を中心に記録的な大雨となった特徴的な降水量分布は、温帯低気圧に構造が変化する過程でみられる、大陸の高気圧の本州付近への張り出しに伴う比較的低温の空気と北上する台風周辺の暖かく湿った空気との間で前線が形成、強化されたもの

図3 台風第19号による記録的な大雨の気象要因のイメージ図
 <出典:気象庁報道発表>

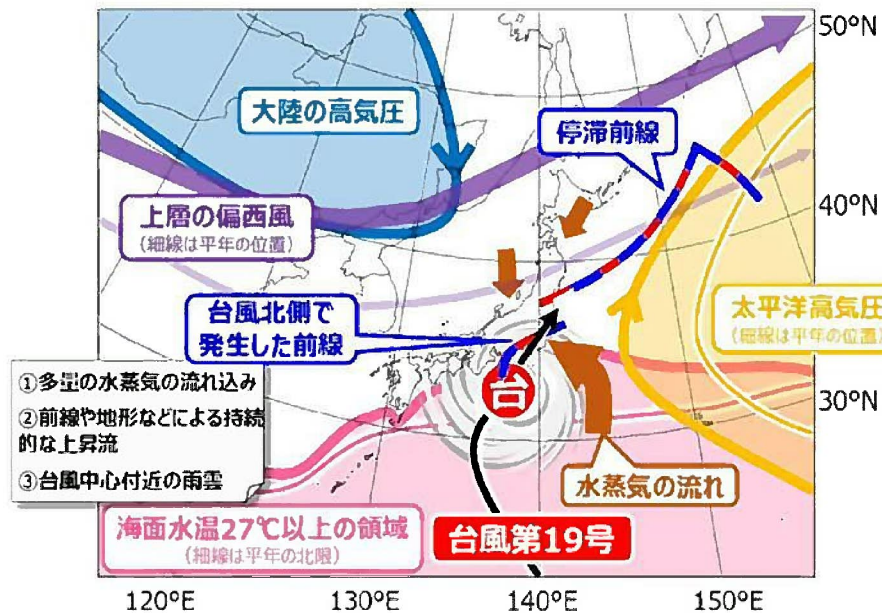
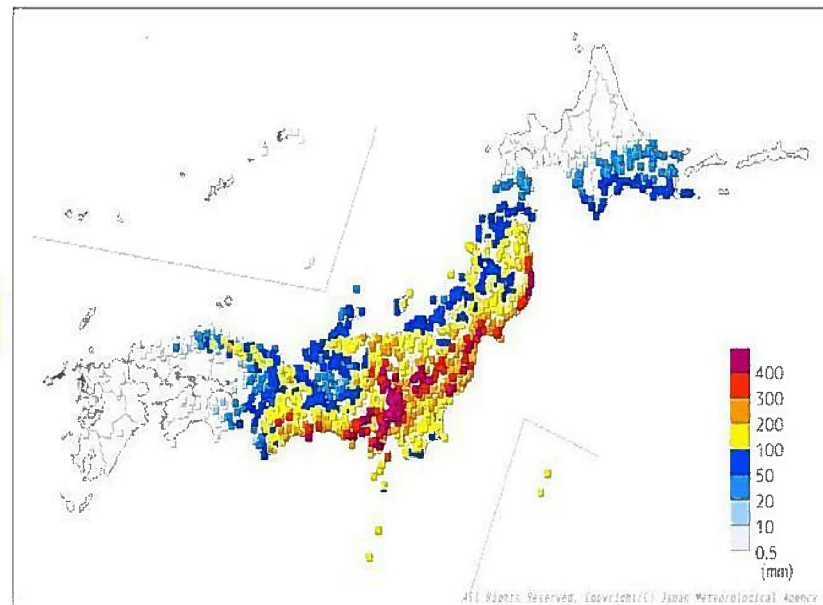


図4 台風第19号による降水量の期間合計値
 (令和元年10月10日~13日)<出典:気象庁>



- ✓大規模な氾濫となった千曲川では、上流に位置する佐久市（アメダス佐久）で10月12日0時頃から連続的に雨が降り始め、12日13時から20時にかけては20mm/hを超える強い雨が8時間にわたり降雨。佐久の12日の日降水量は、これまでの記録（平成11年8月14日の205mm）を大きく上回る303mmを記録。佐久市の南に位置する北相木でも395mmという観測史上1位の記録的な降雨
- ✓このため佐久市下越での水位が上昇し、12日21時には最高水位4.77mに到達。下越より約100km下流にある中野市立ヶ花では、13日4時に氾濫危険水位の9.60mを大きく上回る、最高水位12.44mに到達
- ✓上流と下流では、約7時間の時間差があるが、千曲川は流域面積が7,163km²と非常に広く、上流部で多くの雨が降ったことに起因

図5 千曲川の川幅と縦断勾配
 <出典：国土交通省北陸地方整備局>

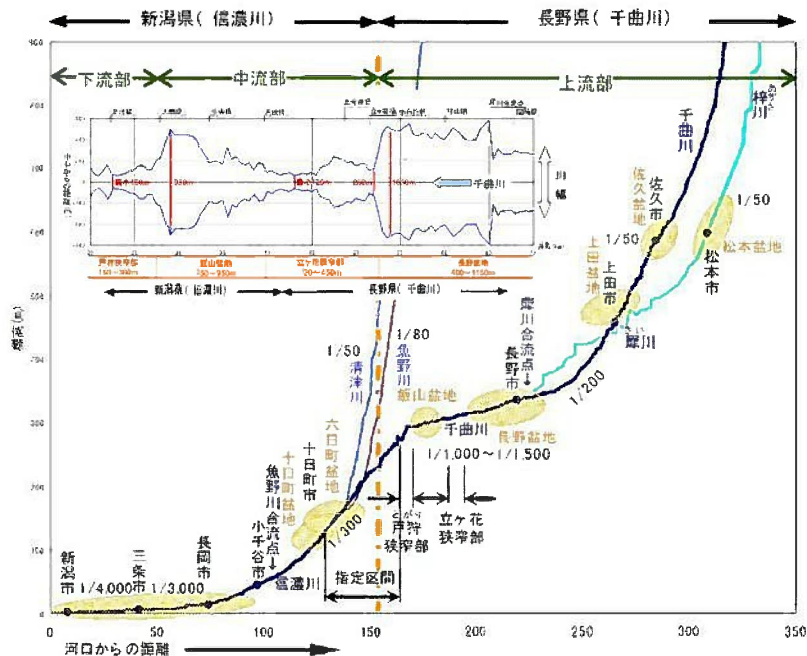
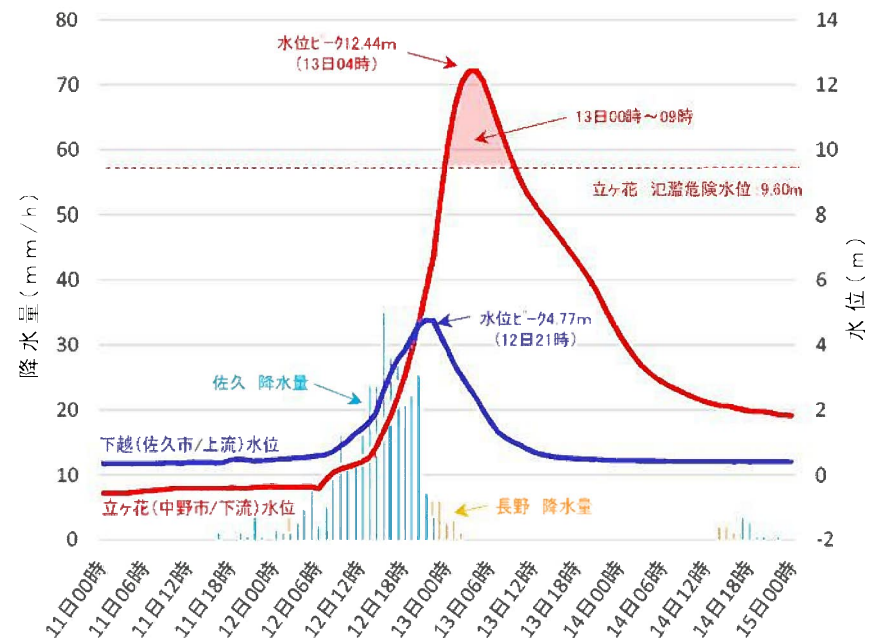


図6 千曲川の水位とその付近の降水量
 <出典：水位/国土交通省、長野県観測所、降水量/気象庁アメダス>



千曲川・犀川の水位状況

- ✓生田（上田）、杭瀬下（千曲市）、立ヶ花（中野市）水位観測所で観測史上第1位の水位を観測
- ✓千曲川本川の3観測所において計画高水位を超過

図7 水位観測所位置図

<出典:国土交通省北陸地方整備局>

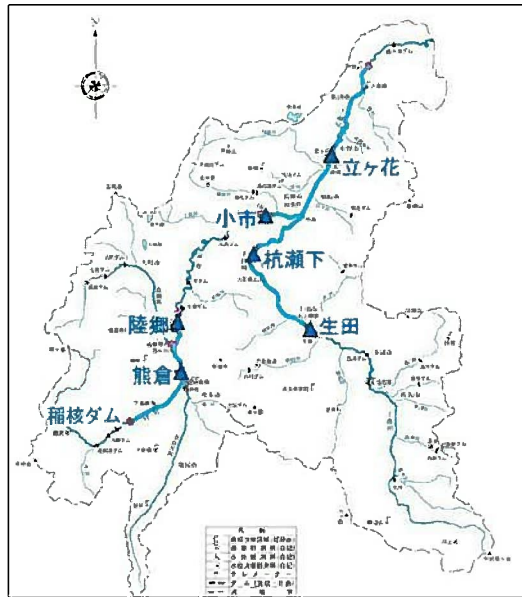


表1 今回の出水の最高水位と水防基準水位<出典:国土交通省北陸地方整備局>

	生田 上田市生田	杭瀬下 千曲市杭瀬下	立ヶ花 中野市立ヶ花	稲核ダム 松本市安曇島女	熊倉 安曇野市豊科熊倉	陸郷 安曇野市明科陸郷	小市 長野市小市
最高水位 毎正時 (10分)	5.80m (5.87m)	6.39m (6.40m)	12.44m (12.46m)	111 m ³ /s (111 m ³ /s)	3.99m (4.07m)	4.09m (4.19m)	0.03m (0.03m)
計画高 水位	5.75m	5.42m	10.75m	1,800 m ³ /s	7.15m	7.47m	5.03m
氾濫危険 水位	5.00m	5.00m	9.60m	780 m ³ /s	6.00m	4.80m	1.80m
避難判断 水位	4.50m	4.60m	9.10m	690 m ³ /s	5.80m	4.50m	1.50m
氾濫注意 水位	1.90m	1.60m	5.00m	300 m ³ /s	4.00m	3.30m	0.00m
水防団 待機水位	0.80m	0.70m	3.00m	220 m ³ /s	3.50m	2.50m	-0.50m

表2 千曲川・犀川流域の降水量(累計雨量:令和元年10月12日1:00~10月14日24:00)<出典:気象庁アメダス>

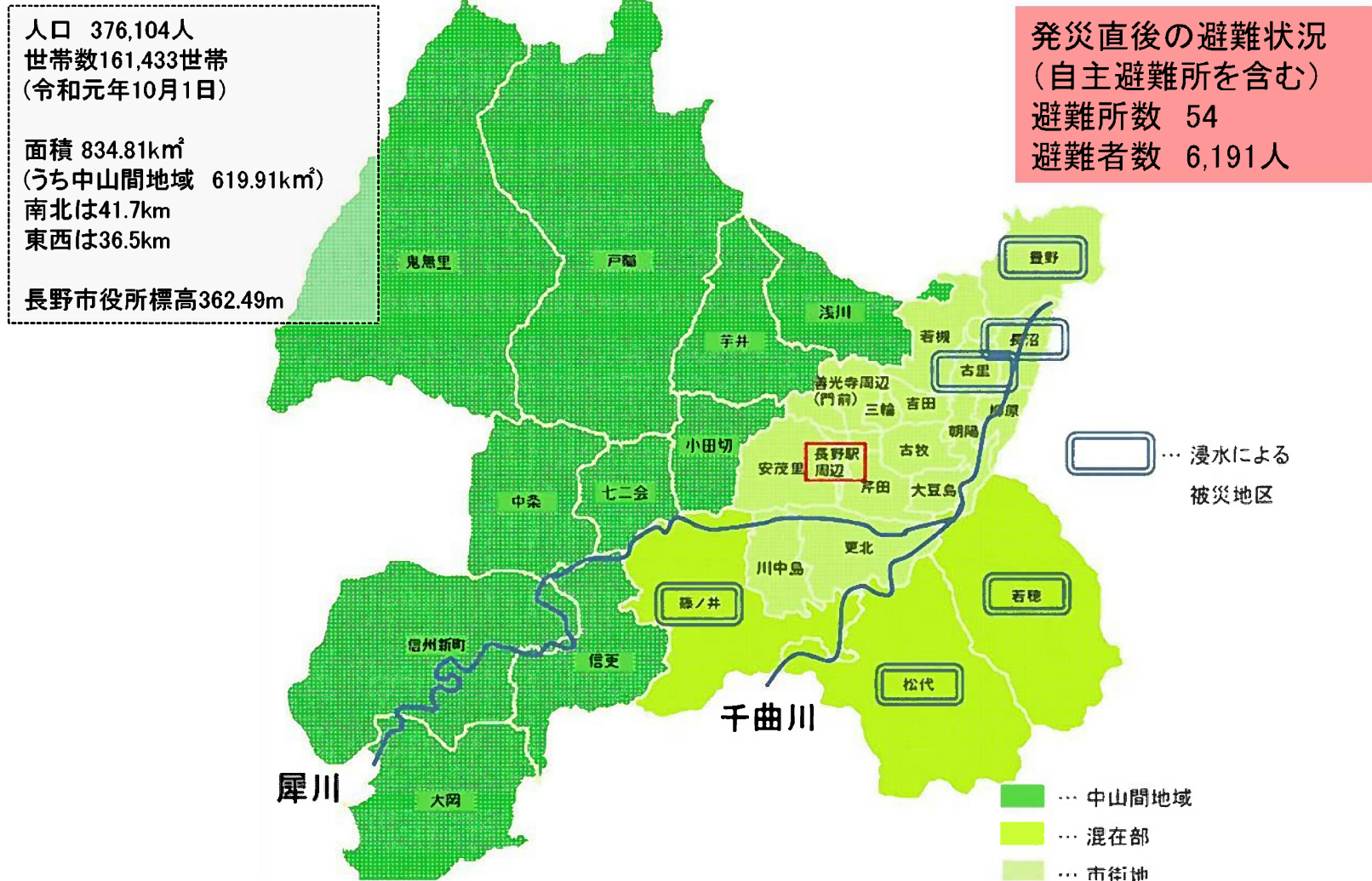
千曲川流域													
野沢温泉 野沢温泉村大字野沢	飯山 飯山市大字飯山	信濃町 信濃町信原	笠岳 笠山町奥山田	長野 長野市路清水	聖高原 麻績町陸ヶ馬場三津山	菅平 上田市菅平高原	上田 上田市若草	鹿教湯 上田市鹿教湯湯泉	立科 立科町戸田	軽井沢 軽井沢町大字長倉	佐久 佐久市中央	北相木 北相木村宇板沼	野辺山 南牧村野辺山
208mm	136mm	190mm	335mm	142mm	250mm	296mm	154mm	333mm	271mm	324mm	311mm	395mm	172mm

犀川流域							
鬼無里 長野市鬼無里	信州新町 長野市信州新町	大町 大町市大町	穂高 安曇野市穂高	松本 松本市沢村	松本今井 松本市大空堂西	奈川 松本市奈川	上高地 松本市安曇上高地
157mm	157mm	98mm	102mm	149mm	130mm	150mm	95mm

令和元年台風第19号による被災状況<1/6>

✓長野市北部の長沼、豊野、古里地区、南部の篠ノ井、松代、若穂地区が浸水被害

図8 長野市の概要と被災地区位置図



✓信濃川水系千曲川（穂保地先）及び同三念沢（豊野町豊野地先）の2か所が決壊

図9 長沼・豊野・古里地区浸水推定段彩図
 <出典：国土交通省国土地理院>

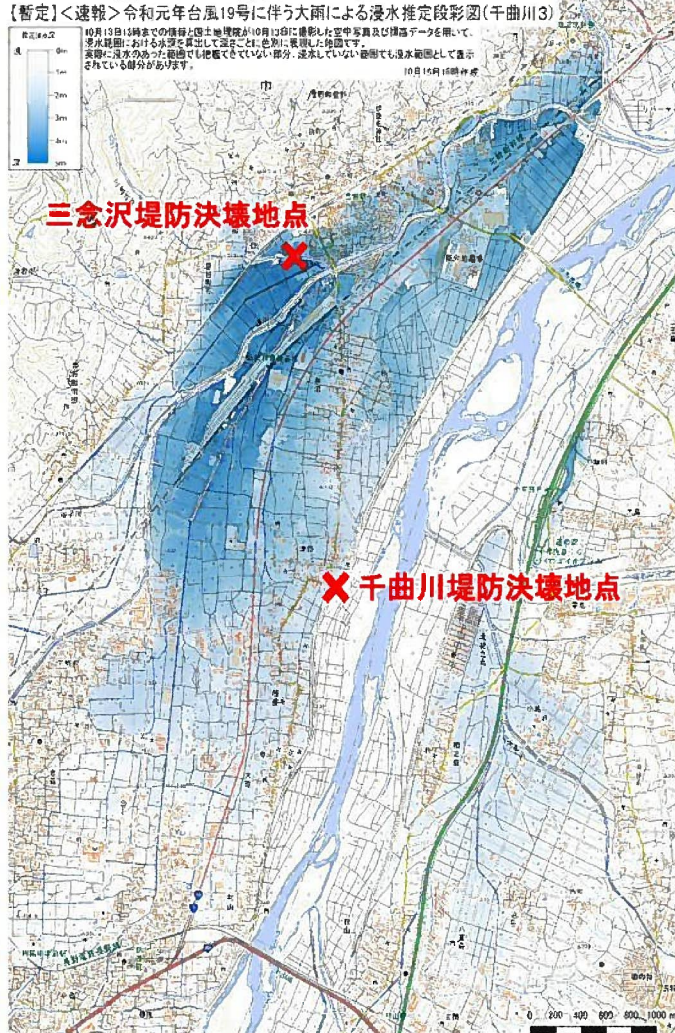


図10 千曲川堤防決壊地点の状況<出典：国土交通省北陸地方整備局>



垂直写真(令和元年10月16日撮影)



①決壊部上流側(令和元年10月13日撮影)



②決壊地点上流側(令和元年10月21日撮影)



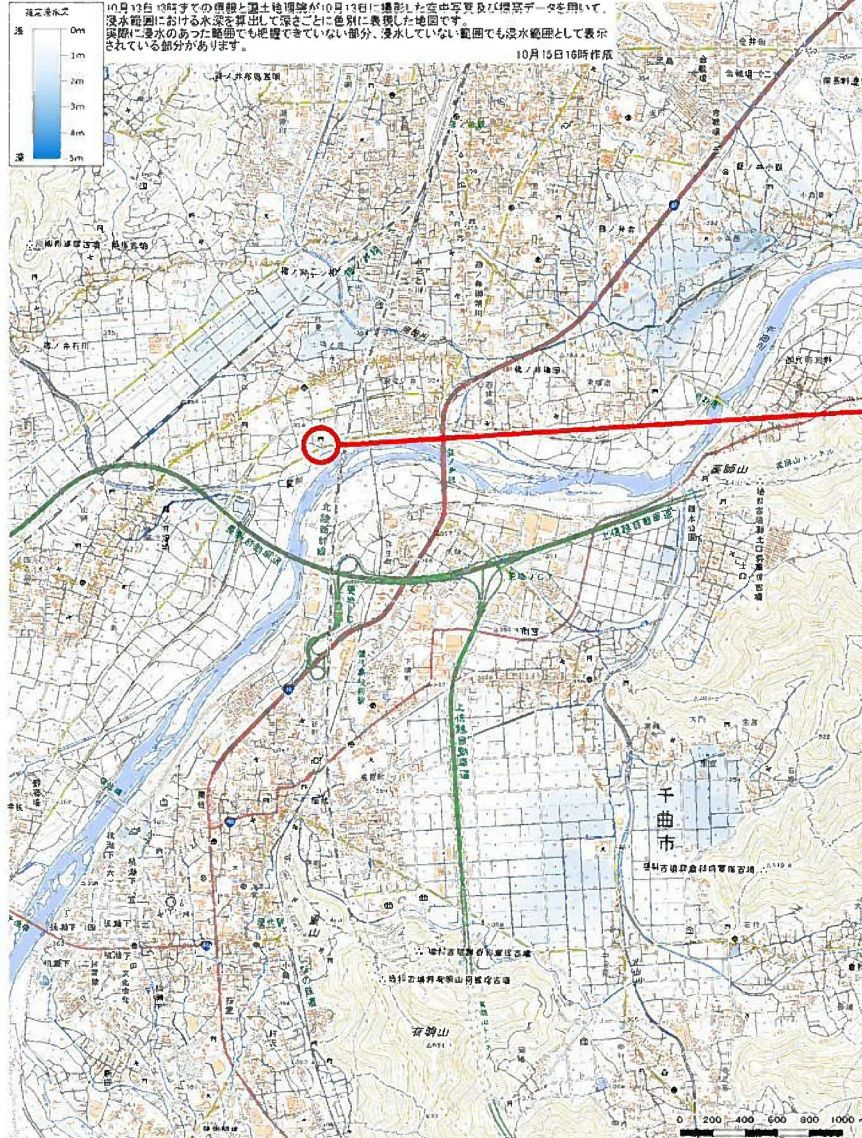
③決壊部下流側(令和元年10月13日撮影)



④決壊地点下流側取付の市道板路(令和元年10月25日撮影)

図11 篠ノ井地区浸水推定段彩図<出典:国土交通省国土地理院>

【暫定】<速報>令和元年台風19号に伴う大雨による浸水推定段彩図(千曲川)



篠ノ井塩崎千曲川堤防越水損壊現場(軻良根古神社横)



図12 松代地区浸水推定段彩図<出典:国土交通省国土地理院>
【暫定】<速報>令和元年台風19号に伴う大雨による浸水推定段彩図(千曲川5)

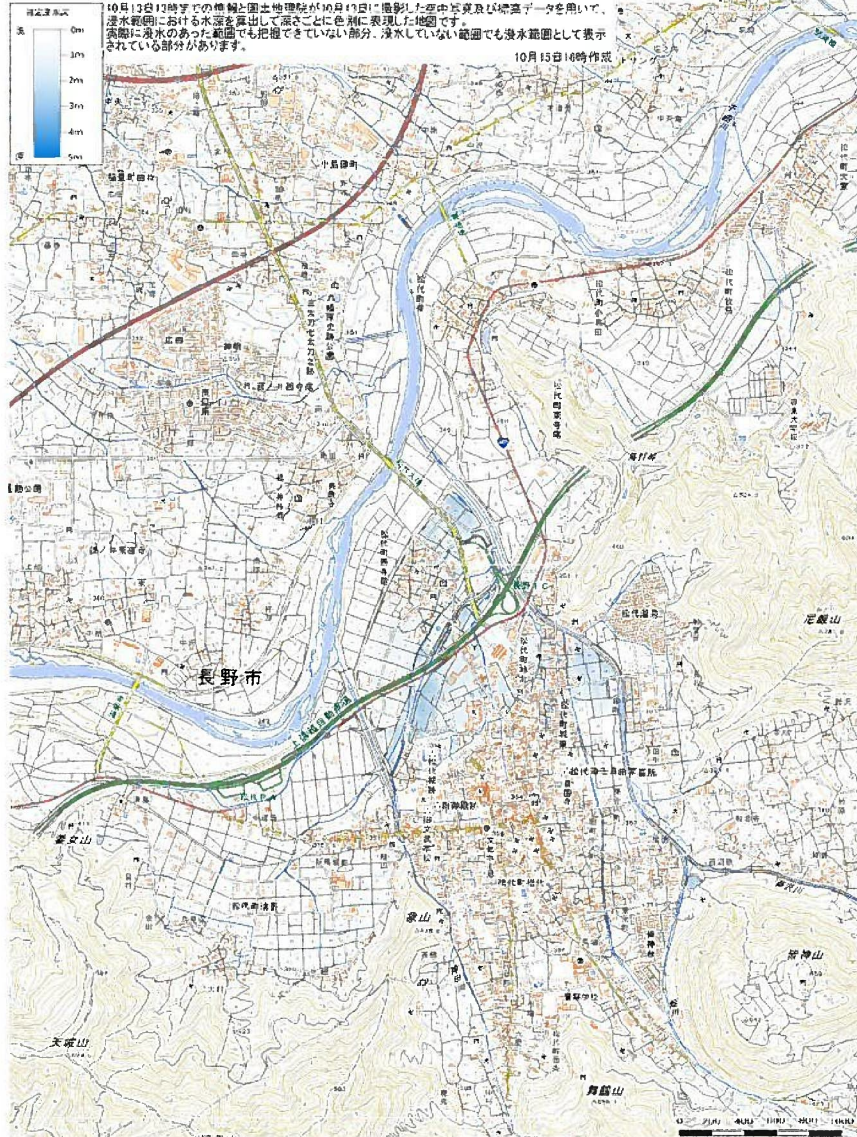
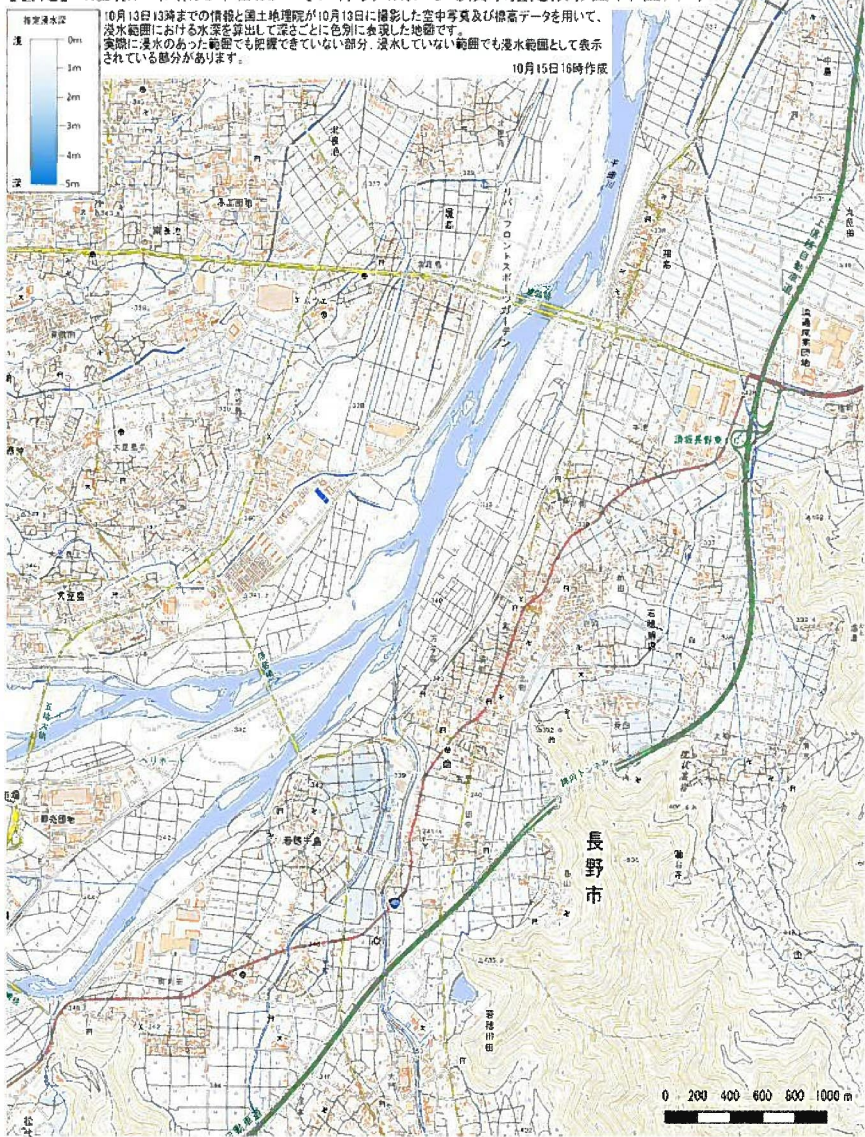


図13 若穂地区浸水推定段彩図<出典:国土交通省国土地理院>
【暫定】<速報>令和元年台風19号に伴う大雨による浸水推定段彩図(千曲川4)



令和元年台風第19号による被災状況<5/6>

✓多数の家屋等が浸水し、死者2名、負傷者84名、全壊をはじめとしたり災証明書交付件数3,600件超

長野市の被害状況(令和元年12月13日時点)

浸水面積(ha)		1,541							
人的被害(人)	死者	2							
	行方不明者	0							
	負傷者	重傷	2						
		軽傷	82						
	計	86							
り災証明書交付件数(件)	全壊	1,033	563	470	0	0	0	0	
	大規模半壊	337	70	168	34	32	33	0	
	半壊	1,244	161	114	52	616	294	6	
	一部損壊	1,056	51	83	82	599	211	15	
	計	3,670	845	835	168	1,247	538	21	
	参考	床上浸水	2,666	795	782	89	663	331	5
		床下浸水	980	50	53	79	582	202	12
浸水以外		24	0	0	0	2	5	4	



※その他地区(三輪、柳原、芋井地区等)として、半壊1戸、一部損壊15戸(床上浸水1戸、床下浸水2戸、浸水以外13戸)あり



✓多くの事業所、農作物、暮らしを支える公共施設・インフラ等が被災

経済活動への被害(令和元年12月16日時点)

	全体	工業分野	商業分野
被災事業所数	498件	165件	333件
被害額	729億円	349億円	380億円

主な公共施設の被害(令和元年11月22日時点)

支所	2施設	長沼支所、豊野支所
教育施設	10施設	長沼小学校、東北中学校、松代中学校、長沼保育園、長沼児童センター ほか
上下水道施設	2施設	東部浄化センター、西沖浄水場
その他施設	66施設	長沼体育館、市営住宅沖団地、豊野老人福祉センター ほか

※全壊、半壊、一部損壊、床上浸水、床下浸水のみ抽出

主なインフラ(社会基盤)の被害(令和元年12月25日時点)

道路	371箇所	24億円
河川	72箇所	8億円



農地への土砂堆積

農業への被害(令和元年12月15日時点)

農作物・樹体	447.5ha	9億円
生産施設・農業機械・共同利用施設	21,294㎡	20億円
農地 (下記の土砂等の堆積以外を含む)	521.8ha	93億円
農業用施設 (排水機場・農道等)	94箇所	60億円
計		182億円

(農地への土砂等の堆積)

堤内地: 183ha、19万2千㎡

堤外地: 334ha、35万1千㎡

被災した排水機場の状況(令和2年1月9日時点)

機場名	排水量(㎡/s)	現在の状況
浅川	44.0	第一機場 復旧工事について国や県と協議中 令和4年出水期前に本稼働予定 第二機場 10/31応急ポンプ稼働(30.0㎡/s) 令和2年出水期前に本稼働予定
長沼	16.5	令和3年出水期前に本稼働予定
大道橋	0.2	令和2年出水期前に本稼働予定
小森第一	17.0	11/18応急ポンプ稼働(17.0㎡/s) 令和2年出水期前に本稼働予定
赤沼	1.8	令和3年出水期前に本稼働予定
三念沢	1.4	令和3年出水期前に本稼働予定
沖	3.7	令和3年出水期前に本稼働予定

- ✓多くの被災者が市内各地の賃貸型応急住宅に居住
- ✓市営住宅等の一時提供や建設型応急仮設住宅の確保等を実施

賃貸型応急住宅の入居状況(令和2年1月6日時点)

賃貸型応急住宅	537件
---------	------

市営住宅等の一時提供(令和2年1月6日時点)

市営住宅	30戸
従前居住者用住宅	45戸
職員住宅	10戸
国家公務員宿舎	38戸
計	123戸



建設型応急仮設住宅の確保(令和2年1月6日時点)

		1人 (1K/6坪)	2人以上 (2DK/9坪)	3人以上 (3K・3DK/12坪)	3人以上 (1LDK/11坪)	合計	入居数
上松東団地	木造	6戸	20戸	6戸		32戸	13戸
若槻団地運動広場	木造	5戸	15戸	3戸		23戸	16戸
昭和の森公園	プレハブ	9戸	27戸	9戸		45戸	26戸
駒沢新町第2団地	トレーラーハウス				15戸	15戸	11戸
計		20戸	62戸	18戸	15戸	115戸	72戸

※上松東団地、若槻団地運動広場は、バリアフリー棟を各1棟建設
 ※全団地にペット可の住宅棟を建設

<避難所運営>

- ✓12月20日に避難所を完全閉鎖

<災害廃棄物>

- ✓12月中に住宅地など生活圏域からの廃棄物の撤去完了
- ✓家庭から出る災害廃棄物の仮置き場への受入れ（アクアパル千曲、豊野東山運動場）

<住宅再建>

- ✓仮設住宅等の提供
- ✓住宅の応急修理（市が業者に委託して実施）
- ✓被災者生活再建支援制度（住宅の被害程度に応じた支援金、再建方法に応じた支援金）
- ✓被災家屋の解体撤去に伴う公費解体（1月10日から受付開始）

<健康見守り>

- ✓保健師による被災地域の巡回訪問等の結果に基づく要支援者のフォロー
- ✓生活支援・地域ささえあいセンター（12月19日設置）による生活支援相談員の仮設住宅等への巡回訪問

<産業>

- ✓農業：農業用施設や機械の再建（再取得）・修繕等の費用を支援する交付金
農地への堆積土砂及び漂着ごみの撤去
- ✓商工業：事業用施設や設備の復旧費用を支援する補助金
- ✓観光業：イルミネーションや灯明まつりなどによる誘客PR及び観光施設の復旧

[参考]近年の主な水害の状況

西暦	年月日	水害の状況
2012	平成24年 7月20日	記録的な豪雨 (3時間降水量の日最大値73mm、日最大24時間降水量120mmともに長野気象台で観測史上1位を更新)により、古牧地区の一部に避難勧告発令、市内で 床上浸水14棟、床下浸水126棟
2006	平成18年 7月15日 ～24日	15日から19日にかけて 県下で記録的な豪雨 、被害額約557億円。長野では17日～19日までの累計降水量161mmを記録。18日～21日にかけて、 河川の溢水25件、土砂崩落11件、倒木等4件が発生(平成18年7月豪雨)
1995	平成 7年 7月 8日 ～13日	11日午後から12日昼頃にかけて 県北部を中心に集中豪雨 。特に鳥居川下流の豊野町浅野地区は甚大な被害。 浅川、裾花川、犀川、岡田川の堤防洗掘、溢水など水害21か所、土砂災害36か所、家屋全壊2戸、半壊2戸、一部損壊3戸、床上5戸、床下5戸浸水 、道路等に甚大な被害あり、市の損害額10億円余(平成7年7月梅雨前線豪雨災害)
1983	昭和58年 9月27日 ～28日	台風10号 は、2日間で県全域に130mm以上の豪雨を降らせ、総額1,717億円余の被害。市内全域で 床上454戸、床下419戸浸水、家屋損壊12棟
1982	昭和57年 9月10日 ～12日	台風18号と秋雨前線 が重なり 県下全域で強風、大雨襲来 。千曲川の水位上昇で中小河川溢れ、市内全域で 床上450戸、床下511戸浸水、家屋一部損壊3棟、負傷者3人、道路・河川の決壊329か所 、その他に被害
1982	昭和57年 8月 2日	台風10号 により、千曲川は昭和56年の台風15号を上回る出水。 篠ノ井、松代、若穂、更北地区の河川敷に冠水、農作物ほぼ全滅、強風でリンゴの落下 全市的に及ぶ。負傷者4人、家屋一部損壊15棟。市の被害総額24億1,540万円余
1981	昭和56年 8月22日 ～23日	台風15号 により、市内で 家屋一部損壊1戸、浸水1,022戸(松代、若穂地区合わせて763戸浸水 、特に松代温泉団地の被害甚大)、農作物の被害総面積390ha、公共土木関係被害243件、市の被害総額23億6,000万円余
1979	昭和54年 8月22日 ～23日	県下全域で大雨 、浅川地区(門沢、西平、北郷)で道路落壊3か所、床下浸水5戸 23日、 裾花川長安橋下流400m地点で護岸70m決壊、右岸50m地点で30m決壊
1970	昭和45年 8月23日 ～24日	北・中信に大雨、雹、雷発生 。長野市内1時間の降水量59mm、23日 権堂中心に水害発生、床上7戸、床下283戸浸水、地下式立体交差ガード通行不能3か所、24日床上1戸、床下556戸浸水
1962	昭和37年 7月13日	北信地方に激しい雷雨 。午後6時から西条地区の山間部に短時間に167mmを記録する豪雨。崩れた土砂は、人家に流れ込み、 神田川の堤防が西条表地区で決壊、東条地区でも洪水 。建物、農作物の被害総額5,000万円、 罹災害5,313人、同夜災害救助法発令(西条地区集中豪雨災害)
1961	昭和36年 6月23日 ～ 7月 1日	昭和36年梅雨前線豪雨、大雨と地滑り で県有史以来最大の人的被害。死者107人、不明29人、重軽傷者1,164人。市内の被害、 田畑の冠水約1,250ha、被災世帯数2,078戸 。千曲川増水で27日落合・屋島橋等の木橋を撤去、丹波島橋上流500mの地籍で堤防決壊(6月30日小市橋流失)
1949	昭和24年 9月23日	県下一円に豪雨。雨量は戸隠村、鬼無里村などに集中、 裾花川増水し九反地籍と岡田地籍の2か所で堤防決壊、市内南部の九反、荒木、中御所、若里、大豆島村、朝陽村等に浸水、長野市内で家屋の流失全壊56戸、半壊浸水2,000戸、被災者11,000余人、死者2人

<出典:長野市消防局「消防年報」>

1 計画策定の趣旨

- ▶ 令和元年台風第19号災害により被災された住民が1日も早く落ち着いた生活を取り戻し、安心して暮らしていけるよう、将来にわたり安全・安心なまちづくりを進めることが必要
- ▶ 市民・地域・行政が自然災害の脅威についての認識を共有した上で、総力を上げて早期の復興を目指す
- ▶ 復興に向けた基本方針を定め、今後取り組むべき施策を体系的にまとめ、具体的な取組や事業期間を示し、復興への道筋を策定するもの

2 計画の対象地域

被災地区(古里、長沼、篠ノ井、松代、若穂、豊野)を中心とした市内全域

3 計画の位置付け

上位計画(総合計画・都市マスタープラン等)との整合をはかる

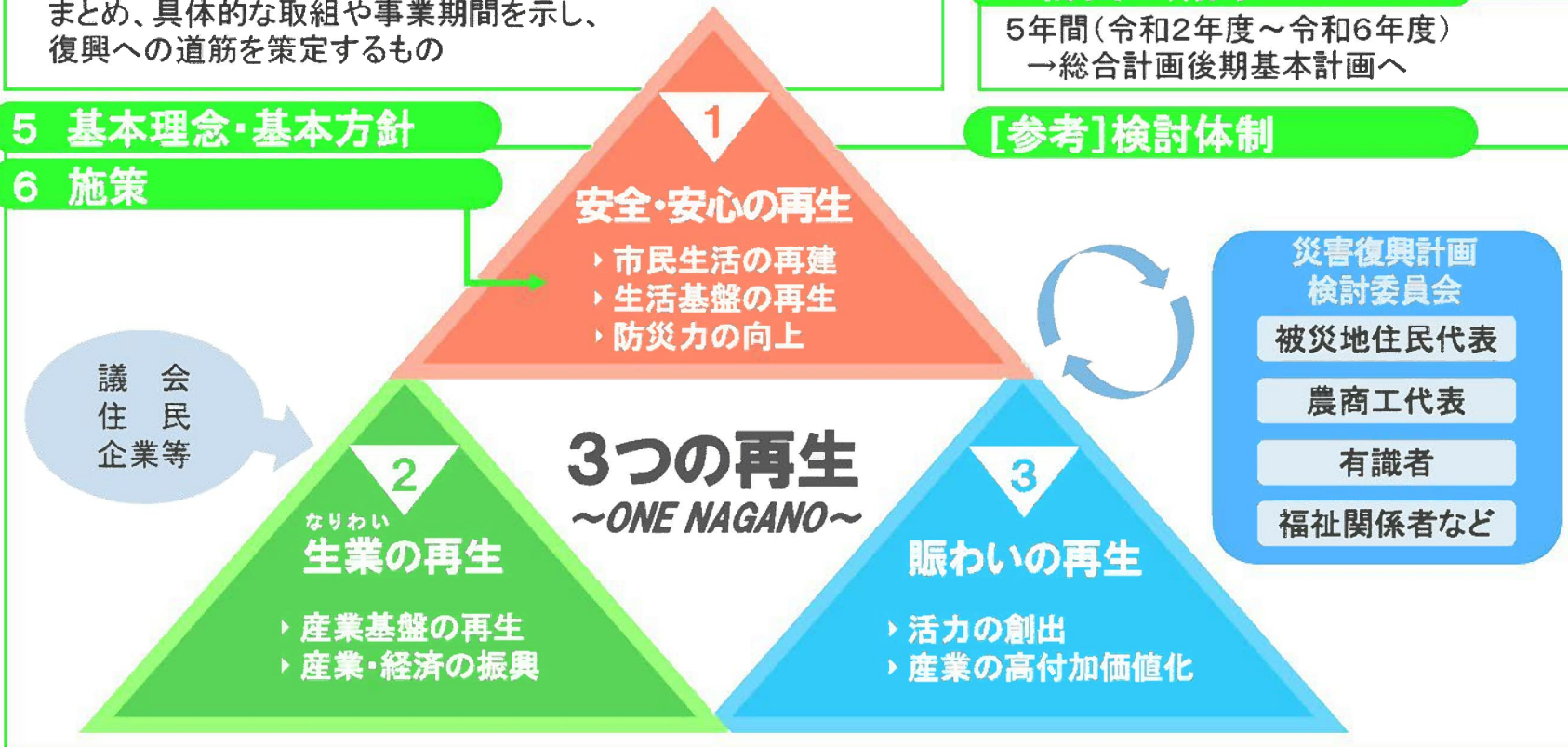
4 計画の期間

5年間(令和2年度～令和6年度)
→総合計画後期基本計画へ

5 基本理念・基本方針

6 施策

[参考]検討体制



本編

第1章 災害概要・被害状況

- 1 令和元年台風第19号の概要
- 2 被害の状況

第2章 計画の基本的な考え方

- 1 計画策定の趣旨
- 2 計画の対象地域
- 3 計画の位置付け
- 4 計画の期間
- 5 計画の構成

第3章 基本理念・基本方針

- 1 基本理念(将来像)
- 2 基本方針
- 方針1 安全・安心の再生
- 方針2 生業(なりわい)の再生
- 方針3 賑わいの再生

第4章 施策・主な取組

方針1 安全・安心の再生

- 施策1-1 市民生活の再建
- 施策1-2 生活基盤の再生
- 施策1-3 防災力の向上

方針2 生業(なりわい)の再生

- 施策2-1 産業基盤の再生
- 施策2-2 産業・経済の振興

方針3 賑わいの再生

- 施策3-1 活力の創出
- 施策3-2 産業の高付加価値化

第5章 地区別計画

- 1 長沼地区
- 2 豊野地区
- 3 古里地区
- 4 篠ノ井地区
- 5 松代地区
- 6 若穂地区

第6章 計画の推進

- 1 計画の推進体制
- 2 計画の進捗管理

資料編

- 1 策定経過
- 2 災害復興計画検討委員会
- 3 市民参画
- 住民アンケート結果
- パブリックコメント結果
- 4 過去の主な水害の状況

第4章 施策・主な取組

基本方針	施策	主な取組	具体的事業（例示）	
1 安全・安心の再生	1-1 市民生活の再生	1-1-1 被災者支援対策	▶ 生活再建支援、見守り・相談支援、身体と心のケア、子ども・子育て支援、相談窓口、復興だより	
		1-1-2 住まいの確保・再建支援	▶ 応急仮設住宅、住宅再建支援、公費解体、災害廃棄物、市営住宅	
		1-1-3 地域コミュニティの再構築・育成	▶ 地域コミュニティ活動支援、交流イベント、住民主体の地域づくり、地域公民館、ボランティアとの連携	
	1-2 生活基盤の再生	1-2-1 生活インフラ・ライフライン等の整備	▶ 道路、上下水道、消防水利、公園、浄水場、電気・電話	
		1-2-2 公的サービス等の復旧・機能回復	▶ 小・中学校、保育園・児童センター、移動手段確保、支所、社会福祉施設等	
	1-3 防災力の向上	1-3-1 治水・治山対策	▶ 河川、護岸、雨水幹線整備、地すべり対策	
		1-3-2 防災・減災に向けた都市基盤の強化	▶ 防災拠点、避難所、避難経路	
		1-3-3 地域の防災・減災の体制づくり	▶ 防災マップ、地域防災計画、自主防災組織、防災訓練・教育、マイタイムライン作成、情報伝達手段	
		1-3-4 行政の災害対応力の強化	▶ 災害応急体制検証、避難所運営、情報発信強化、職員育成	
	2 生業(なりわい)の再生	2-1 産業基盤の再生	2-1-1 農林業の再興	▶ 農地の土砂撤去、土壌改良、農道・用水路・取水施設等の農業用施設、林道、利子補給
			2-1-2 商工業の再興	▶ グループ補助金、利子補給、相談窓口、各種補助金
		2-2 産業・経済の振興	2-2-1 農林業の振興	▶ 営農支援、農地再編・整備、新規就農者育成、特産品創出、6次産業化（一部）
2-2-2 商工業の振興			▶ 企業誘致・立地、工業団地、新技術・新製品開発	
2-2-3 雇用機会の確保			▶ 若者の地元就職支援、雇用の維持・創出支援、職業相談	
3 賑わいの再生	3-1 活力の創出	3-1-1 定住促進	▶ 移住、地域おこし協力隊、若者・女性、ワーキングスペース、多世代交流、健康増進、生きがいつくり	
		3-1-2 復興応援事業	▶ 復興イベント連動(スポーツ、文化)	
		3-1-3 シティプロモーション	▶ 動画等を活用した情報発信、著名人を活用したプロモーション、アンテナショップ	
		3-1-4 近隣市町村との連携促進	▶ 連携中枢都市圏構想	
	3-2 産業の高付加価値化	3-2-1 観光産業の革新・成長	▶ 観光プロモーション、着地型観光促進、インバウンド、広域観光	
		3-2-2 新たな産業の創出	▶ 6次産業化（一部）、地域資源発掘・活用、ジビエ振興、林業振興(里山林再生)	

復興計画策定の全体スケジュール(案)

項目	令和元年度					令和2年度
	11月	12月	1月	2月	3月	4月
1 「復旧・復興方針」公表	★ 11/13					
2 組織体制						
災害復興本部設置		● 12/1	→			
災害復興本部会議			① 12/25	② 1/29	③ 2/14	④ 3/19
災害復興本部会議幹事会 【随時開催】			→			
3 災害復興計画検討委員会						
第1回委員会 (計画の方向性、意見交換)			諮問 ① 1/14			
第2回委員会 (災害現場視察)				② 1/22		
第3回委員会 (計画骨子案)					③ 2/5	
第4回委員会 (住民アンケート結果、計画素案)					④ 2/25	
第5回委員会 (パブリックコメント結果、計画案)						⑤ 3/27 答申
4 地区別意見交換・懇談会 【被災住民又は地区代表者】				→ 1月中旬～2月末		
5 パブリックコメント					→ 2/28～3/13	
6 復興計画公表						★ 4/初